

# 第3章 総合的な学習の時間

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨及び内容を踏まえ、各学校における指導が、全体計画や年間指導計画、単元計画を基に適切に実施され、一時間ごとの学習活動がより豊かで充実したものとなるよう作成したものである。

総合的な学習の時間の実施状況を見ると、各学校の取組の差が大きく、中には、運動会の準備などと混同された実践や教科の補足的な学習に充てている事例なども見られた。そこで、学習指導要領の改訂のこの機会をとらえて、各学校において全体計画及び年間指導計画等が十分見直され、一時間ごとの指導の工夫改善に資するよう資料を作成した。

### 2 取り上げた内容

#### (1) 年間指導計画及び単元計画作成の要点

ここでは、年間指導計画及び単元計画の作成の要点をチェックポイントとして示した。各学校においては、ここに示した事項を踏まえ、年間を見通した計画的な学習指導を展開し、各学校がねらいとする資質・能力が生徒一人一人に確実に身に付くよう計画の見直しと改善を図っていくことが大切である。

#### (2) 総合的な学習の時間における学習指導案作成上の留意点

ここでは、一時間ごとの学習指導が充実するよう学習指導案作成上の留意点を示した。これらの留意点を踏まえて、次の「4 指導事例」において学習指導案として具体的に示した。

#### (3) 指導事例

各学校において学習指導案を作成する際の参考となるよう、今回の改訂で新たに例示された「職業や自己の将来に関する学習活動」のほか、「探究的な学習」を行うことや「協同的」に取り組む態度を育てること、体験活動や言語活動の充実の視点から、次のア～エの指導計画例を取り上げた。また、それぞれの事例において、ポイントとなる事柄をはじめに示すこととした。

ア 職業や自己の将来に関する学習を位置付けた事例

イ 他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視した事例

ウ 言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を重視した事例

エ 体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けた事例

この他、探究の過程及び言語活動の充実のための手立て、職場体験活動を行う際の留意事項を示し、これらの学習活動が適切に実施されるための参考とした。

### 3 実践化の配慮事項

総合的な学習の時間は、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものであることを改めて認識し、次の点に配慮しながら指導方法等の具体的な改善を進めることが大切である。

#### (1) 具体的で発展的な教材

総合的な学習の時間で扱う教材は、生徒の学習を動機付けたり、方向付けたり、支えたりするものであることが望まれる。生徒の身近にあり、直接体験したり繰り返しかかわったりすることのできる具体的な教材や、一つの対象から次々と学習活動が展開し、自然事象や社会事象へと広がり、学習の深まりが生まれてくる教材を選択することが必要である。

#### (2) 教師の適切な指導

総合的な学習の時間では、生徒の主体的な学びとそれを支える豊かな教材と併せて、教師が指導性を発揮することが何より大切である。生徒が主体性を発揮している場面では生徒が自ら変容していく姿を見守り、生徒の取組が停滞しているような場面では具体的な助言や指示を行うなど、教師が学習活動のイメージを具体的にもって指導に当たることが必要である。また、総合的な学習の時間と道德教育との関連を意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

#### (3) 確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運用

授業時数の管理については、学期末などの節目に実施時数を積算するなどして、学習活動の進捗状況と照らし合わせていくようにする。体験活動を重視することによって、ややもすると授業時数が不必要に増大していくことが懸念される。見直しをもった計画づくりと併せて、適切な時数の管理と学習活動の見直しが必要である。

## 第2 指導計画作成のための資料

### 1 年間指導計画作成の要点

年間指導計画は、学年の始まる4月から翌年3月までの1年間における生徒の成長をとらえて、学習活動が連続するように設定していく。年間指導計画を作成する意味は、1年間という時間の中で、時間の流れを追って学習活動を構想し、その学習活動における生徒の具体的な姿を想定する点などにある。どのような学習活動をどの時期に取り上げ、その活動を通してどのような生徒の変容を期待するのか、具体的な生徒の姿を思い描きながら年間指導計画の構想を立てることが望まれる。年間指導計画は、学校行事や各教科等の学習に配慮するほか、地域素材を十分に吟味して作成することが肝要である。年間指導計画に盛り込まれる要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定時数などが考えられる。さらに、各学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を盛り込み、この時間の学習活動が一層豊かなものとなるよう、創意工夫を生かして作成することが望まれる。

以下、年間指導計画の作成に当たってのチェックポイントを記す。

- 第1学年にあっては小学校の、第2学年、第3学年にあっては当該学年までの生徒の学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、その経験や成果が年間指導計画に生かされているか。
- 1年間の学習活動について、実際の学習活動が生徒の実態に合ったものであったか、学校や地域の特色を生かしたものであったか、実施時期や時数の配当は適切であったかなどについて、十分に検証し、見直しをしたか。
- 地域の伝統行事や季節に応じた生産活動、歴史的・国際的な記念日など、日程と内容の両面から、総合的な学習の時間の展開に生かしたり、関連付けたりすることができるのかをあらかじめ検討したか。
- 学習指導要領において各教科等の内容を確認し、関連的な指導が可能な単元については、相乗効果が得られるよう実施時期や方法を調整するなど工夫されているか。
- 年間指導計画の作成に際しては、当該学年の中だけで考えるのではなく、第1学年から3学年までを見通し、学習活動に重複や偏りがなく、学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるかなどの検討がされているか。
- 生徒の興味・関心や問題意識の方向性が当初計画したとおりに展開せず「ずれ」が生じた場合や、方向性が同じでも想定した生徒の姿と実際の姿との間に「隔たり」がある場合には、単元の展開途中であっても変更や改善を加えることができるような柔軟な計画になっているか。
- 総合的な学習の時間を効果的に実践するために、保護者や地域の人、研究者や専門家などの多様な人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など、様々な教育資源が活用されているか。

### 2 単元計画作成の要点

総合的な学習の時間では、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業である。生徒は、自分を取り巻く人、もの、ことについて、様々な関心や疑問を抱いている。教師は、その中から教育的に見て価値のあるものをとらえ、それを適切に生かして学習活動を組織する。学習活動の展開においては、育てようとする資質や能力及び態度が育成され、内容が獲得されるように、生徒が自ら課題を解決する過程を想定して単元の計画を立てる。

総合的な学習の時間の単元計画に際しては、生徒の関心や疑問を重視し適切に取り扱うことや、問題の解決や探究活動の展開において、いかにして教師が意図した学習を効果的に生み出していくかということがポイントである。

以下、単元計画作成に当たってのチェックポイントを記す。

#### (1) 生徒の関心や疑問を生かした単元の構想

- 単元計画に際して、生徒の関心や疑問は何かをていねいに見取り、把握しているか。
- 教師の働きかけなどにより、新たに生まれた関心や疑問をよりどころに活動を組織し、単元を生み出しているか。
- 生徒にとって切実な関心や疑問の中から、価値ある学習に結び付く見込みのあるものを取り上げているか。

#### (2) 意図した学習を効果的に生み出す単元構成

- 学習の展開における生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測しているか。
- 特定の素材から広がる活動や対象を、できるだけ幅広く拡散的に思考をめぐらせるなど、十分な教材研究がされているか。

### 3 学習指導案作成上の留意事項

#### (1) 単元名

総合的な学習の時間において、どのような横断的・総合的な学習や探究的な学習が展開されるかを一言で端的に表現する。生徒の学習の姿を具体的にイメージできる単元名にすること、学習の高まりや目的を示唆できるようにすることなどに配慮する。

#### (2) 単元目標

どのような学習を通して、生徒にどのような内容を学ばせ、どのような資質や能力及び態度を育成するのかを明確に示す。各学校の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成する。なお、目標の標記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。

#### (3) 単元について

##### ア 単元設定の理由

生徒の発達の段階に合わせて、目標とする資質や能力及び態度を育てるのにふさわしいと判断した理由や横断的・総合的な学習や探究的な学習としての価値、生徒の興味・関心、学校や地域の特色など単元設定の背景などについて記述する。さらに、問題の解決や探究活動の展開において、いかにして教師が意図した学習を効果的に生み出していくか、特に、教師はどこでどのような意図的な働きかけをする必要があるか、またその際に、留意すべき事柄は何かなどについて具体的に明らかにする。

##### イ 生徒の実態

単元を構想し、構成する際の生徒の実態について記述する。特に、扱う内容、育てようとする資質や能力及び態度についてどのような実態であるかを把握するとともに、中核となる学習活動についてどのような経験をもっているのかについても明らかにする。

##### ウ 教材について

教材とは、生徒の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、生徒がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記す。

#### (4) 単元の指導計画・評価計画

##### ア 単元の観点別評価規準

信頼される評価とするために、およそどの教師も同じように判断できる評価が求められる。そのため、学校として評価規準が統一されていることが望ましい。あらかじめ指導する教師間において、評価の観点、例えば、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」などについて確認しておき、目指す姿、生徒像を具体的に示す必要がある。

##### イ 単元の指導計画、評価の視点

指導計画に盛り込むべきものとして、時間、学習過程、主な活動、支援、各教科等との関連、活動形態、担当者、評価などが考えられる。単元の指導計画が分かるように記述するとともに、評価の視点（おおむね満足できる生徒の姿を想定したもの）を観点別に位置付ける。また、評価方法（観察、発言、作品、ノート、対話など）についても位置付ける。各学校の意図が分かるように記述することが大切である。

#### (5) 本時の学習指導（○／○時）（本時のねらい、本時の評価規準、指導過程などについて記述する。）

##### ア 目標

本時に育てたい資質や能力、考え方や態度について具体的に記述する。

##### イ 展開

指導過程を明確に示す。その際、教師の働きかけや生徒の活動が分かるように記述する。読み手に授業者の意図が具体的に伝わるようにすることが大切である。また、各教科で身に付けた力をどのように活用するのか、道徳とのかかわりなどについて記述することも考えられる。

##### ウ 備考

単元を構成するに当たって、参考となる事項があれば記述する。

## 4 指導計画例

### 【事例1】職業や自己の将来に関する学習を位置付けた事例

#### 【本単元の特徴】

本単元は、探究活動の過程に身近な人や地域の人から職業についての話を聞くなど職業や自己の将来に関する学習を位置付け、自分の将来の夢や希望、生き方を考えられるようにした。ここでは、個人が作成した資料に基づくグループ内での発表や、互いの発見の共通点や相違点なども含めて情報を共有集積した新聞作成など、協同的に学ぶ取組を行うとともに、言語活動の充実のために的確で分かりやすいプレゼンテーションや、講師とのお互いあるいはグループ内での意見交換を積極的に取り入れた。

#### 1 単元名 地域とのふれあいを通じた職業調べ「誰もがプロフェッショナル」(16時間) 第1学年

#### 2 単元目標

- ・保護者や地域の方々との交流を通して、職業観についての情報を収集、選択、整理し、将来の夢や希望、自分の生き方について考える。
- ・働く人たちの多様なものの見方や考え方、生き方を知る。
- ・将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲や態度を高めるとともに夢や希望の実現について考える。

#### 3 単元について

##### (1) 単元設定の理由

小学校の生活科では「地域のお店調べ」などを行ったり、総合的な学習の時間では、地域に出て様々な職業の方から情報収集し、地域の名人について学んだりしている。中学校では、発達の段階から、より具体的な将来設計を目的とした活動が可能である。

本単元では、身近な人や地域の方がどのような仕事(業種)に携わっているか、仕事に対しての苦勞や喜び、働いている意義や誇りを聞き取りまとめていくなどの職業調べを行い、そこから得られた情報を分析し、職業と自分の適性を関連付ける学習活動を行う。そして家族や身近な人に対して感謝や尊敬の念をもたせるとともに、プロスポーツ選手だけがプロではなく、日頃接している親や身近な人も社会の中での「職業人」であり、その道のプロであること、そして、そのプロによって社会は構成され、機能していることに気付かせたい。

本単元は、この後実施する職場体験学習への重要なステップとしても位置付けている。

##### (2) 生徒の実態

事前に「将来の進路(職業)に関し、具体的な目標をもっているか」や「情報を得る努力をしているか」、「身近な人に相談しているか」、「目標達成のために生活しているか」などのアンケート調査を実施した。その結果を考察すると、将来の職業について調べたり、その職業に就くための具体的な手段を知ろうとしたりしている生徒が少ないことが分かり、これは個人の目的意識にも反映しているものと推測できる。

また、インタビューのシミュレーションを行うと形式的で一方的なものとなり、相手の意見や考えを理解し深まりを求めることができない生徒が多く見られる。また、他人との価値観の違いや、それに対する意思を明確に表現することなども苦手としている生徒が多い。このような生徒に、将来の生き方について考えさせ、自分のよさや可能性に気付かせることは価値あることである。

##### (3) 教材について

身近な保護者をはじめとする大人を「職業人」としての視点でとらえ、その生き方に学ぶ。また、地域と結び付きのある6つの職種の方々を招聘し、体育館で9つのブースに分ける。そして、「その道の専門家」からの話を聞き、質疑応答や意見交換を行い、働くことの意義や仕事への誇りを理解する。そして個人新聞の作成やグループでの討議、プレゼンテーションなどを通して、自分にとって職業とはどのようなものであるか、自分の将来の夢の実現や進路選択に際してなすべきことについて考える。

## 4 単元の指導計画・評価計画

### (1) 単元の観点別評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
・調査活動等に関心を持ち、適切な情報収集や、そこから得た情報を主体的に整理・分析し、分かりやすくまとめ、表現することができる。	・学ぶことや働くことについて理解し、自己の能力や適性などを踏まえ、将来に対する夢や希望をもつことができ、今何をなすべきかを考えることができる。	・進路選択や夢の実現のために必要なことを社会人から学ぶとともに、社会人や友人との交流をもとに他者から学ぼうとする姿勢をもつことができる。

## (2) 単元の指導計画・評価の視点 (本時 8・9/16)

学習過程	時間	主な学習活動	学習形態	教師の支援 (○) 及び評価 (・) (㊦…学習方法 ㊧…自分自身 ㊨…他者とのかかわり)
課題の設定	1	○オリエンテーション ・今回の単元のねらいや学習の進め方について知る。 ・職業調査の目的を課題として設定する。	学年  個人	○学習の進め方について具体的な資料を示し、概要を理解させる。  ・課題づくりに主体的に取り組んでいる。㊦
情報の収集	1	○身近な人から学ぶ。 ・身近な人の職業を調査する。 (聞き取り・レポート) (研究テーマの例) 「なぜ、この職業についたのか」 「この職業での喜び」 「この職業に必要な能力」など	個人	・家族や親戚、周囲の身近な大人から職業について話を聞き、まとめることができる。㊦ ○聞き取った内容、それに対する考察を踏まえてまとめているか確認する。
整理分析	1	○クラスで話し合う。 (話し合いの視点例) ・職業の果たす役割を考える。 「社会にどのように貢献しているか」 ・個人にとっての職業を考える。 「何のために働いているのか」	学級  グループ	○収集した情報を話し合いの視点例を参考に整理させ、課題を明確にさせる。 ○調査したことをもとにして、職業が社会にどのように位置付けされているかを考えさせる。 ○他の人の調査方法や調べた内容と、自分のものごとを比較させ内容を深めさせる。
まとめ表現	2	○班新聞を作成する。 ・情報を整理し、記事をつくる。 ・グループで班新聞を作成する。	グループ	・家族や親戚、周囲の身近な大人の職業と社会とのかかわりについてまとめることができる。㊦ ○各自の調査した記事を分類し、整理させる。 ○過去の新聞(作品)などを例示する。
情報の収集	2	○地域の人から学ぶ。 ・聞き取り調査する3つの職業についてグループで話し合い、聞きたい内容、聞くべき内容を整理する。 ・聞き取り用紙を作成し、内容を深め充実させたインタビューのシミュレーションを行う。 ・体験談の会場に用いる資料を準備する。	グループ	○内容を広げ深めさせるために、作成した班新聞の他の生徒の記事と自分の記事の内容を比較させ、インタビューの視点や質問内容を工夫させる。 ○各グループが作成した聞き取り用紙を基に事前に体験談を話される方と打ち合わせし、情報環境を整える。 ○グループで話し合い、展示のための資料や掲示物を作成する。
	2 (本時)	・地域で働く方からの体験談を聞く。 (研究テーマの例) 「この職業についた理由」 「この職業での喜び」 「この職業に必要な資格や能力」 「この職業での失敗や辛さ」 「この職業と収入」 「今も続けている理由」等	グループ	○苦労や失敗、辛さなどを理解し、それを克服した「働く意義」について考えさせる。 ・聞き取り用紙を活用し、情報を得て、仕事に対する姿勢や誇りを感じ取ることができる。㊨
整理分析	2	○体験談から情報を整理する。	グループ	・グループで各自の調査内容を提供し合い、情報を集積し整理することができる。㊨ ○着眼点のよさや情報収集の工夫した点を評価する。
まとめ	1	○個人新聞を作成する。 ・体験談から情報を整理する。	個人	・自分のレポートとグループ討議で整理した資料を有効に活用している。㊦ ○過去の個人新聞(作品)などを例示することにより、活動の見通しをもてるようにする。
	2	○グループ発表用プレゼンをつくる。	グループ	○個人新聞の内容をお互いに確認し合い、職業別の発表資料等を作成させる。
表現	1	○職種別にグループで発表する。	学級	・グループで導いた結果を分かりやすい資料や方法で発表している。㊦
振り返り	1	○職業や職種についてまとめる。	個人	・自分にとって職業とはどんなもので、今何をしなくてはならないかをまとめることができる。㊧

5 本時の学習指導 (本時 8・9 / 16)

(1) 目標

地元で働く様々な職業の方たちとの交流の中から、仕事やその意義について理解することができる。

(2) 展開 (90分)

学習過程	分	学 習 活 動	◆指導上の留意点 ◎評価
活動の理解 (全体) ガイダンス	10	○本時の意義や進め方、自分の課題を確認する。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;">                     学習課題                      生き方、学ぶこと、働くことへの意欲をもち、主体的な学習や進路選択に必要な情報を収集しよう！                 </div> ・今何を学ばなくてはならないかを考え、自ら判断することが大切なことであることを知る ・職業への理解を深め、将来に夢を抱き、その実現に向けての将来設計を考える	◆各グループ別に集合させ、全体説明を学年主任から行う。 ◆課題について認識させる。 司会進行 / 生徒代表 タイムキーパー / 生徒代表  ◆ねらいを明確にさせる。 ◆各担当コーナーの装飾を行う。 業種別の掲示物、統計グラフなどを掲示することで、環境を整え、興味・関心と課題解決への意欲を高める。
課題の発見 (グループ)	65	○9つのブースに分かれ、講話と質疑応答を行う。 ・講話や質疑応答から必要な情報を収集し、自己の生き方、学ぶこと、働くことなどに関心をもつ	◆仕事内容など業種とのかかわりを重視させる。 ◆代表質問者を先頭に、円滑に進行できるように配慮する。
情報の収集 (グループ)		○代表の生徒が職種別対談コーナーで協力いただく講師の方々を紹介する。 ○各自が準備した質問内容について確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     職種別対談コーナー                      ①農業関係 1・2 ②建築関係 ③小売業関係 1・2                      ④教育福祉関係 1・2 ⑤観光業関係 ⑥医療関係                 </div>	◆質問ポイントを明確にさせる。 ※建築・建設業に関する目的意識・経験談などから将来の夢へ結び付けさせる。
地域の方との ふれあい・交流		※質問事項を基に、グループ単位で対談を開始し20分ごとにローテーションする。 ○どんな意識で働き、仕事に誇りをもっているのかということについてインタビューをしてまとめる。 「この職業について理由やきっかけは何ですか」 「この職業で喜びを感じる時はどんな時ですか」 「この職業に必要な資格や能力は何ですか」 「この職業で辛いと思ったことはありますか」 「この職業と所得との関係をどう考えていますか」 「今も続けている理由は何ですか」等	◆対談者と生徒達とのふれあいが円滑に行われるよう言葉かけなどで補う。 ◆身近な人とのインタビューで得た内容と比較をさせ、考え方や受け止め方に共通点や異なる点があることに気付かせる。 ◆苦労や失敗、辛さなどを理解し、それを克服した「働く意義」について深く考えさせる。
課題の整理 (グループ)	10	○聞き取り用紙に記入する。	
本時のまとめ (グループ)	5	○代表生徒により感想を発表する。 ・協力いただいた講師の方へのお礼と、講話や質疑応答から学び得たことをまとめ発表する。  ※次時の学習内容について知る。	◆対談による情報を整理させ、自己評価させる。 ◎聞き取り用紙を活用し、情報を得て、仕事に対する姿勢や誇りを感じ取ることができる。㊸ ◆自己課題を解決するための手立てを発表させる。

(3) 備考

招聘職業種一覧

農業関係 (近隣農家) ・ 建築関係 (市内建設会社) ・ 小売業関係 (近隣コンビニ店) ・ 福祉関係 (社会福祉協議会)  
観光関係 (関係旅行代理店) ・ 医療関係 (看護師)

## 【事例2】他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視した事例

### 【本単元の特徴】

本単元は、多様な情報を活用したり異なる視点から考えたり、また力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶことにより課題を解決しようとする学習活動を重視したものである。課題を設定する場面では、ウェビング法(イメージマップ)を用い、友達と意見を出し合ったり、課題解決のための活動計画づくりや課題追究の場面では、友達との意見交換をはじめ専門家など校外の人と交流したりするなど、課題を異なる視点から考察し自分の考えを深められるようにした。

## 1 単元名 「エネルギーを大切にしよう」(36時間) 第1学年

### 2 単元目標

エネルギーの大切さを知り、環境エコに携わる活動を通して、他者と情報交換しながら、多様な情報を活用し、より良いものを判断できる力を育てるとともに、集団で協力しながら効果的に課題を追究したりや発表の役割を分担したりするなど共同的に学ぶ態度を育てる。

### 3 単元について

#### (1) 単元設定の理由

現在、先進国では生活が豊かになり、電気製品、自動車などあらゆるものが便利になっていく反面、その動力となるエネルギーも多く消費されてきた。そのため、石油、天然ガスなどの大量の化石燃料を採掘し、利用してきたため、地下資源が徐々に減り、無限に利用できる状態ではなくなりつつある。また、それに伴う温室効果ガスの排出により、大気中の二酸化炭素濃度が上昇し、平均気温の上昇に伴う世界的な気候変動が現実のものとなり、異常気象が各地では発生し始めている。このような地球規模の環境・エネルギー問題に対処するために、化石燃料にかわる新たなエネルギー源として、太陽光や風力などの自然エネルギーの利用に多くの国が積極的に取り組み始めている。現在、自然エネルギーの重要性が様々なところで叫ばれており、身近な問題に目を向けさせ、本市の環境問題を重視した取組を参考にしたり、独自の環境教育施設や近くの電力会社からの助言を参考にしたりしながら我々のできる問題解決を意識した実践的な生活をさせたいと思い、本単元を設定した。

#### (2) 生徒の実態

生徒は日頃、水道・電気・ガス・灯油などをいつでもどこでも使える環境で便利な生活をしているため、節約をしたり、他のエネルギーに代替えすることを考えるなどの場面に接することは少ない。従って、自然体験の中で、水道・電気・ガスのない生活をすることによって、その資源の大切さを知り、エネルギーを無駄にせず、節約したり、他のエネルギーに変えていく方法を考えることが必要不可欠になってくる。まずは、身近な日常生活の中で電気をまめに消したり、水を大切に扱ったりするなどの意識をもたせていきたい。

また、生徒が友達と協同して取り組むことによって、自分を取り巻く状況を把握したり、他人の考えを聞き入れたりする機会を大切にしたい。従って、学習過程の一部に集団で取り組む場面を入れたり、地域の人から意見を伺ったりする場面を多く取り入れ、共に学ぶことにより、個人の学習の質を高めると同時に集団の学習の質も高めていく。

#### (3) 教材について

本教材では、電気・ガスのない共通体験(自然体験)の中で資源の大切さを知り、本来のエネルギーの重要性に関心を向けさせながら、どのようにしたら上手に無駄を減らしたり節約したりすることができるか考えさせる。また、地球温暖化原因の化石燃料に代わる自然エネルギーとは何か、またそれ以外の新エネルギーはないかということについて考察させ、身近な生活の中で、エネルギーの節約や地球温暖化の原因を減らせるような実践ができる力を備えるきっかけにしたい。

## 4 単元の指導計画・評価計画

### (1) 単元の観点別評価規準

関心・意欲・態度 (主体性・創造性)	思考力・判断力 (学び方・考え方)	表現力・技能	知識・理解
化石燃料に代わる太陽光や風力などの自然エネルギーや水素を利用した燃料電池による簡易発電型エネルギーなどの新エネルギーに興味をもち、友達などと協力しながら、学習に取り組もうとする。	課題を具体的に追究できるようにテーマを設定し、学習計画を立て、調査や友達との意見交換、専門家など校外の人との交流などから、課題を異なる視点から考察し、自分の考えを深めることができる。	他者と協力しながら、多様な情報を収集、整理・分析し、課題解決を図り、まとめたことについて、発表方法を工夫して分かりやすく伝えることができる。	化石燃料に代わる太陽光や風力などの自然エネルギーや水素を利用した燃料電池による簡易発電型エネルギーなどの仕組みや必要性が理解できる。

(2) 単元の指導計画・評価の視点

※評価の観点は以下のように略記する。

関心・意欲・態度（主体性・創造性）→〈関心〉

思考力・判断力（学び方・考え方）→〈思考〉

表現力・技能→〈表現〉

知識・理解→〈知識〉

過程	時間	学習活動	学習形態	指導上の配慮事項及び評価規準
共通体験	1	(8) 事前共通体験学習（1泊2日）：自然体験 （日光へ宿泊体験）ランプや薪を使った生活体験 宿泊室は電灯なし、ランプのみ、調理はガスなし、薪のみ	学年	◎特別活動（行事）と総合的な学習の時間との関連付けを考慮する。 ◎課題設定の参考にするための電力会社職員の講話を位置付ける。 〈関心〉メモをとったり、質問するなどして講話を聞こうとする。
	1	共通体験学習 ・電力会社職員の自然エネルギーに関する講話を聞く。	学年	
課題の設定	2	4 課題の設定 ・テーマの決め方を学ぶ ・イメージマップを作成する。 ・テーマを考え、決定する。 （例）太陽エネルギーは現在の化石燃料にかわる新エネルギーとなりうるのか？→太陽電池や燃料電池は新エネルギーを効率よく蓄えられるか？	グループ （生活班） 個人	〈関心〉自分から進んでテーマを設定し決定しようとする。 〈思考〉学年のテーマに沿ったテーマを考えることができる。 〈知識〉課題設定方法が理解できる。 ◎「新エネルギー」をキーワードとし、自然エネルギーを考察させる。 ◎類似した課題をまとめる。 〈思考〉実行可能な学習計画をたてることのできる。
	3	1 協同的に学ぶためのグループづくり	グループ	
	4	2 活動計画書作成 ・グループ内で学習計画を考える。	グループ	
情報の収集・整理・分析	5	5 課題解決のための調査（情報の収集） ・調査の仕方を学ぶ。 ・各場所で調査する。 ・話し合い活動の仕方を学ぶ。 ・話し合い活動の準備をする。（役割分担、進め方等）	グループ	〈関心〉積極的にテーマについて調べようとする。 ◎話し合い活動がスムーズに行えるように進め方などを指導する。 ◎他者から情報を得、次の課題追究へつなげていくために、討論する3人が異なる体験をして、別の視点から話し合えるようにする。 ◎生徒が積極的に質問したり、意見を述べるように働きかける。 〈思考〉異なる視点から、意見を述べ合い、課題追究に生かしている。 〈表現〉課題追究のために、体験活動・調査・制作・実験等を試みている。 〈知識〉調査の仕方が理解できる。
	1	1 体験活動 ・市の環境教育施設や電力会社の職員の指導を受け、太陽電池を使ったオルゴール作りや燃料電池自動車への試乗、火熾しなどの体験をする。（本時1）		
	1	1 課題の追究（情報の整理・分析） ・話し合い活動をする。（本時2）		
	4	4 課題の調査や体験活動（情報の収集）（本時3） ・各場所での調査、体験、実験、製作、考察など		
	2	2 課題の追究（情報の整理・分析） ・話し合い活動をする。 ・まとめ方を学ぶ。		
まとめ・表現	6	7 発表準備 ・レポートにまとめる。 ・発表の仕方を学ぶ（模造紙・紙芝居・PCなど）。 ・模造紙や画用紙、TPシートに書く。 ・発表に向けて、リハーサルをする。	グループ	〈思考〉当日の発表を想定しながら、シナリオを作ることができる。 〈表現〉調査したことを分かりやすく、整理して自分の言葉にできる。 ◎発表について役割分担をして、自信をもって表現できるようにする。 〈思考〉聞き手の質問に、分かりやすく答えることができる。 〈表現〉発表方法を工夫して分かりやすく伝えることができる。 〈知識〉まとめや発表の仕方が理解できる。
	7	5 成果発表 ・テーマの近いグループを同じ担当クラスにし、そのクラス（5）を2つに分け、一方は発表、他方は聞き役となる。 ・他の担当クラスに発表する。 ・代表者が全員の前で発表する。	グループ 各クラス  学年	
振返	8	3 学習の反省 ・各自のポートフォリオを完成させ、提出する。	グループ	〈関心〉今回の学習を振り返り、次回の学習に生かそうとする。 〈思考〉自分の学習を振り返り、客観的な自己評価ができる。



5 本時の学習指導 (14・15・16/36時)

(1) 目標

〈関心〉自然エネルギーに関心をもち、資源の節約を図り、日常生活改善の実践をする意識を高め、市の環境教育施設や電力会社の職員と共に積極的に体験活動に参加したり、職員から進んで疑問な点について質問したりすることができる。

〈表現〉友達と協力して情報収集し、多様な情報を整理できる。

〈思考〉友達の考えを聞き、自分の考えと比較し、情報を分析し、考察できる。

(2) 展開

学習の流れ	時間	学習内容及び学習活動	◎指導上の留意点 〈観点別〉評価
導入	5分	○本時の活動内容は「体験活動後に、専門家から情報を得、グループ内で話し合い、より深い課題追究をすること」を知る。	◎本時の目標と活動内容を提示し、明確にする。
体験活動と情報の収集・整理・分析	45分	○市の環境教育施設主催の体験活動に参加する。(他者から情報を得、体験的、協同的に学ぶ) 体験活動例 * 太陽電池を使ったオルゴールの製作(電力会社の職員と共に) * 燃料電池自動車への試乗(市の環境教育施設の職員と共に) * マッチを使わない火熾し体験(学校の職員と共に)	◎市の環境教育施設や電力会社の職員と事前打ち合わせを行い、体験の進め方を確認しておく。 ◎生徒の活動に対して製作や試乗の際の注意事項などを指導助言する。 〈関心〉体験活動に積極的に参加している。 〈思考〉自分の課題に合った体験を選択している。
	15分	○市の環境教育施設や電力会社の職員に質問したり、意見交換を行ったりする。(他者から情報を得る) 質問例 * オルゴールが動く仕組みは何か? * 太陽電池は天気により、充電される量は左右されるのか? * 1回の充電による燃料電池車はどの位の距離を走るのか? * ローハス(LOHAS)とは何か?	◎生徒が積極的に質問したり、意見を述べるように働きかける。 ◎討論に入る前にできるだけ、集められる情報をたくさん集めさせる。
	35分	○生徒同士で話し合い活動をする。(異なる視点から考える) 討論の例 * 太陽光エネルギーを蓄える太陽電池、簡易発電型の燃料電池、原始的な火熾しの中で環境に優しいものはどれか? * ハイブリッドカーは本当にエコカー減税で得をするのか? ガソリン車より利用価値が本当になくなるのか? * 電気自動車に使う燃料電池の仕組みはどのようになっているのか? 将来的に実用化され、普及するのか? * オール電化住宅とガス併用住宅では光熱費はどちらが安くなるのか? ※討論は命題を説明する人(賛成派に近い)、それについて意見を述べる人(反対派に近い)に分け、話し合わせる。ただし、競うものではないので、状況により、意見に賛同しても良い。	◎事前に話し合い活動の仕方を指導し、準備の時間をとる。 〈思考〉他人の意見を受け入れ、聞き入れ、自分の課題追究に生かしている。 ◎課題追究の際に問題点が発生した時に的確な指導助言を与える。 ◎グループで協力しながら、情報を整理・分析させる。 〈表現〉積極的にかつ友達と協同的に情報の整理・分析を行っている。 ◎討論は3人で行い、命題について賛成派と反対派に分けて討論させる。一人は進行役となり、賛成論と反対論を具体的に述べさせる。また、専門家からも話し合いの際に助言を得る。 ◎内容によっては意見に賛同してもよいこととする。
	45分	○話し合った内容について整理し、参考になった意見を書き出す。 ○異なった視点から得た情報から疑問点を明らかにし、再び情報を収集する ○グループで収集した情報を整理・分析する。→図書館、ホームページなどを活用する。(多様な情報の活用、協同的に学ぶ)	◎〈表現〉収集した情報を取捨選択し、必要な情報を整理・分析している。
まとめ 自己評価	5分	○本時の活動についての自己評価をする。	◎〈関心〉自分の学習について真剣に振り返っている。

### 【事例3】言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を重視した事例

#### 【本単元の特徴】

本単元は、総合的な学習の時間における言語活動の充実を視点にした指導事例である。市役所各課の担当者の協力を得ながら、地域について学習し、調べた内容を最終的に「提言書」という形でまとめていく過程に、「対話」や「インタビューのメモ」、「全体への発言、発表」、「総合シート（毎時間その時間の学習内容をまとめる用紙）への記述」など、自分の考えを声や文字を通して表現させる活動を重視した。

#### 1 単元名 「私のふるさと創造計画」（70時間） 第3学年

#### 2 単元目標

自分を育ててくれたふるさとへの感謝の気持ちを持ち、ふるさとのこれからを担う一市民としての自覚を深める。

#### 3 単元について

##### (1) 単元設定の理由

高度成長に伴い生活が便利になった反面、地域社会をとりまく環境は、少子高齢化、自然災害など環境の変化、地域コミュニティの不足、治安への不安視など様々な問題を抱えている。こうした問題に目を向け、これまでも1学年で福祉、2学年で環境など各学年でテーマを設け、体験活動や教材等を通し、身近な地域に対する見方や考え方を身に付けている。

そこで本単元では、①中学生として社会問題へどうかかわればよいのかを理解し、自らの問題としてとらえる②解決を図りながら「自分が意識すればできること」や「他の人の助けや協力がないとできないこと」を明確にする③「自分が意識すればできること」は実生活の中で実践していく④「他の人の助けや協力がないとできないこと」は行政の方々へ提言書という形で働きかけるといった活動を行う。これらの活動を通して、ふるさとの未来を担う一市民としての自覚を深めさせたいと考え本単元を設定した。

##### (2) 生徒の実態

生徒は、自分たちの生活をよりよくしていこうとする意欲があり、様々なアイデアを出しながら生活改善を図ることができる。また、これまでの経験を生かし、課題解決に必要な資料収集や発表用の掲示物作りといった場面では素晴らしい力を発揮できる。その一方で、課題意識を持ち、探究活動に継続して取り組む力や資料の中から必要な部分を取り出すことや自分の言葉で表現すること、相手に伝わるように発表するといった力が十分に身に付いていない。

##### (3) 教材について

本教材は「自分の住んでいる町」そのものが教材である。授業の中で、これまでの経験も生かしながら、自分の町を「福祉」「環境」「安全」等、自らテーマをもって見つけ、「何が課題か」や「課題解決に必要なものは何か」、「自分が意識すればできることは何か」、「他の人や助けがないとできないことは何か」、「行政の方に対してどう提言するのか」を考え、活動していく。また、毎時間「自分の言葉」を重視し、感じたことや気付いたことなどを総合シート（総合的な学習の時間専用の用紙）に記入しファイルに綴っていく。そのことにより、これまでの学習を振り返り、考えを深めることができるようにする。

#### 4 単元の指導計画・評価計画

##### (1) 単元の観点別評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
地域の人との交流を中心に情報を収集し、資料の中から必要な情報を取り出し、伝えたい相手に分かりやすく提言書として表現することができる。	課題解決を図りながら、自分自身の生活を見つめ直し、よりよくするための努力と新たに自分にできることを考え、実生活に生かすことができる。	自分の住む町に誇りをもつと同時に町が抱える問題を自分なりの課題としてとらえ、学習の成果を地域社会に還元することができる。

(2) 単元の指導計画・評価の視点 (㊦…学習に関すること、㊧…自分自身に関すること、㊨…他者や社会に関すること)

月	学習の流れ	時	学習内容・学習活動	◎指導上の留意点 ☆評価規準 ●言語活動への支援
4	課題設定	2	【オリエンテーション】 ・今年度の総合的な学習の時間のねらいと進め方を知る。	☆学ぶ意義や意味を理解し、よりよい自分の在り方を探ろうとする。㊧ ●自分の考えを分かりやすく表現できるよう助言する。 ●生徒間で協議し、類似した内容をまとめ、タイトルを付けさせる。
5		2	【自分の町への願いを語ろう】 ・短冊に未来の町への願いを端的に記入する。黒板に提示しながら、内容を発表する。	
6		2	【各個人の願いを分類しよう】 ・各個人の願いをまとめ、分類する。	
・環境に関するもの ・福祉に関するもの ・安全に関するもの ・名産や特産物に関するもの 等				
7	情報収集 整理分析	6	【市内実地視察をしよう】 ・課題に基づき、市内の公共施設等を訪問し、各担当の方に現状と課題についてインタビューをしたり駅や道路の状況を調査したりする。 ・老人ホーム ・公民館 ・郷土資料館 ・消防署 ・清掃センター ・警察署 等 【課題設定とその理由を考えよう】	●相手の立場に立った言葉づかいを心がけさせる。 ●話を聞く際にメモを取る。そのメモを基に総合シートにまとめられるよう指示する。 ●気付いたこと、感じたことを確実にメモするよう指導する。 ◎情報収集においてはグループを原則とし、同じ課題をもつ仲間とグループをつくらせる。 ●グループ内で意見交換をさせ、様々な情報収集の方法があることを理解させる。 ☆課題解決のための見通しをもち、計画を立てることができる。㊦ ☆他者とかかわりながら新たな価値観を見いだしている。㊨
	課題設定	3	・教師との対話を通して、どんな調査活動ができるのかを考えながら課題設定する。 【情報収集の様々な方法を考えよう】	
		1	・これまでの経験を生かして情報収集の方法について意見交換し、知識と意欲を高める。 【課題解決のための計画を立てよう】	
	計画立案	3	・時間的な見通しと内容をグループ内で協議しながら計画を立てる。 【情報収集をしよう】	
	情報収集	3	・課題に基づき、情報収集を行う。	
・担当者へインタビュー調査 ・路上アンケート調査 ・駅や道路の状況調査 ・インターネットでの調査 ・市立図書館を利用したの文献調査 等				
8	情報収集	夏休	【情報収集しよう～夏休み編～】	●確かな情報をメモすることと同時にその場で気付いたこと、感じたこともメモに残し、それを整理するように指導する。 ☆課題を言語により分析し、まとめ、表現することができる。㊦ ●グループ協議に入る前に、個人で考え、まとめる時間も設け、意見をもって参加させる。 ●自分の伝えたいという思いと調査結果を分かりやすく記述させる。
9	情報収集	1 6	【情報収集しよう】 ※中間報告会を行う	
1 0	まとめ・表現	2	【これまでのまとめをしよう】 ・地図やグラフを用いるなど言語とともに視覚的にも分かりやすくまとめる。	
1 1	課題設定 情報収集 まとめ・表現	1	【提言内容を決定しよう】 ・グループ協議を通して提言内容を決定する。	
		1	【自分の思いが伝わるような提言書の書き方を考えよう】※本時	
1 2		1 0	【提言書を作成しよう】 ・前時に学んだことを生かし作成する。	
1	まとめ・表現	6	【提言書を市役所に提出しよう】 ・感謝の気持ちを述べながら、提出する。	☆学習の成果を地域へ広げようとする。㊨ ●発表に対する評価規準を明確にし、準備・練習を行わせる。 ☆自分の住む町へ愛着をもつ。㊨ ●相互評価をし、互いのよさを認めさせる。 ☆聞き手に分かりやすく表現、発信することができる。㊦ ◎自分自身が成長したことについてまとめさせる。
2		6	【学んだことを発信しよう】 ・模造紙にこれまでの活動をまとめ、発表練習を行う。	
3		2	【学級発表会をしよう】 ・ポスターセッションを行う。	
		2	【学年発表会をしよう】 ・代表生徒によるポスターセッションを行う。	
		2	【まとめ・評価をしよう】 ・1年間を振り返り、今年度のまとめをする。	

5 本時の学習指導 (42/70時)

(1) 目標

- ・住みよい町づくりにかかわろうとする意欲をもつ。(他者や社会とのかかわりに関すること)
- ・課題に対し、自ら働きかけ、自己の在り方を考える。(自分自身に関すること)
- ・提言内容を具体的に言葉で表現するとともに、提言書の書き方について知る。(学習に関すること)

(2) 展開

学習内容	分	○生徒の活動 ・予想される生徒の反応	言語活動	◎指導上の留意点 ☆評価規準
1 本時の内容を知る。	3		聞き取り	◎本時の目標と内容について黒板に提示し、明確にした上で学習を進める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「自分の思いが伝わるような提言書の書き方を考えよう」</div>				
2 提言書の内容について考える。	7	○自分の提言内容を確認するとともにどんなことを提言書に書けば自分の思いが伝わるのか考える。 ・カラスなどの被害を防ぐために、家庭ゴミの集積場所に折りたたみ式のゴミ箱を設置する。 ・バリアフリーを推進するため、町の段差や点字ブロック等の設備の再点検をし、必要な場所に必要な設備を設ける。 ・交通事故0を目指すために、市内安全マップを作成し、全家庭に配布する。また、市内放送で呼びかけ安全への意識を高めてもらう。 ・市の特産物を全国的にPRするために独自のキャラクターづくりをする。	分析	◎個々の意見を確立させるために一人で考える時間を十分に確保する。 ☆よりよい町づくりを意識している。㊸
	10	○グループで話し合う。 ・これまでの調査を生かしたい。 ・地図を入れて、分かりやすくしよう。 ・国語の作文で勉強したことを生かすようにしよう	話し合い	◎ブレインストーミングの手法を用いて、多くの発言を引き出すようにする。
	10	○グループごとに出た意見を発表する。	発表	◎生徒の発言によって①～④の内容が出た場合は、より効果的な提言をするための記述順について、さらに発言を求める。
3 提言書に盛り込む内容をまとめる。	10	○教師の説明を聞き、総合シートにまとめる。	聞き取り 記述	◎生徒の出した意見を生かしながら、書き方の例を示す。  ◎論点を明らかにすること、根拠に基づいて書くことなど、国語科で学んだ意見文の留意点にも触れ、指導する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>&lt;書き方の例&gt;</p> <p>①自分の町を思う気持ちについて記述する。</p> <p>②これまでの調査内容、方法、結果を相手に伝わるように記述する。必要であれば、図やグラフなども用いる。</p> <p>③「自分にできること」について、その決意を記述する。</p> <p>④行政の方々をお願いしたい内容について、明らかにする。</p> </div>				
4 本時のまとめを総合シートに記入する	10	○本時の気付きと提言書作成への意欲をまとめる。	記述 聞き取り	☆自分の課題に対し、実生活の中でも意識し生活しようとしている。㊹
5 教師の話聞く				

#### 【事例4】体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けた事例

##### 【本単元の特徴】

本単元は、4分野（A 自然環境・B 社会環境・C 福祉健康・D 国際理解）の中から生徒自身が1分野を選択し、生徒自身の興味・関心により課題を設定しそのテーマに沿ってグループで協同して追究するもので、課題追究の場面に課題の解決につながる体験活動を2回位置付けた。さらに体験活動を通して実感的に学び、課題を再設定する活動も取り入れた。

### 1 単元名 「介護の心構え」 (62時間) 第2学年

### 2 単元目標

自ら設定した介護についての課題を解決するため、インターネットや書籍での情報の収集や2回の体験活動を通して得られた情報を整理・分析し、介護を行うには何が大切かを理解するとともに、学んだことを自己の生き方の中で実践しようとする。

### 3 単元について

#### (1) 単元設定の理由

これからの社会は、高齢者の占める割合が高くなり、数年後には4人に1人が高齢者になると言われている。本単元は、将来自らも高齢者になるということ踏まえ、高齢化社会を控えた今、介護の心構えや仕方について調べ、実際に介護体験を行って、介護について理解を深めることをねらいとして設定した。また、調査・研究や体験活動を通して学んだことなどをもとに、現在及び将来の自己の生き方について考える活動をさせたいと思い、本単元を設定した。

#### (2) 生徒の実態

核家族化が進んでいる現在、身近に高齢者がいるという家庭が少なくなっている。その中で、高齢者に目を向け、さらに「介護」について学ぶことは、これからの生活の中でとても重要なことである。しかしながら、生徒が介護を行うに当たっての心構えや介護の仕方などについて興味をもっているが自主的に調べる機会はあまりない。

介護について生徒自らが学ぶ機会を設定し、主体的に課題を解決する力を育てる必要がある。

#### (3) 教材について

本単元では、介護についての様々な知識を得るために、病院で調査研究活動を行い、病院で得た知識を実践するため実際に特別養護老人ホームで介護体験を行う。自らの課題を解決する手段として、この2回の体験活動を探究活動の過程に位置付けた。

また、自分自身の興味・関心に基づいて自ら課題を設定し、課題を解決するために調査・研究を行い、自ら体験活動等を行う場を探す活動を取り入れる。さらに、体験活動等で分かったことを効果的にまとめ、工夫して発表する場や、相互評価や自己評価を行うことにより、他者のよさを発見するとともに自分のよさを自覚する場を設定し、体験活動等で学んだことを自己の生き方につなげていく。

### 4 単元の指導計画・評価計画

#### (1) 単元の観点別評価規準

課題設定の能力	問題解決の能力	学び方・考え方	学習への主体的創造的態度	生き方を考える力
介護について関心を持ち、自らの課題を明確に設定している。	課題解決のために、介護体験などで得た情報をもとにして考えをまとめている。	課題解決のための計画を立て、多様な方法で介護について調べたり、調べたことを分かりやすく効果的にまとめ、工夫して発表したりしている。	自他の取組等を評価したり、自分の学習を修正したりしながら学習しようとする。	調査活動や体験活動で学んだことを自己の生活の中で実践している。

(2) 単元の指導計画・評価の視点【評価の観点は次のように省略して記入する。〔課題設定の能力→課題〕〔問題解決の能力→問題〕〔学び方・ものの考え方→学び〕〔学習への主体的創造的態度→態度〕〔生き方を考える力→生き方〕】

学習過程	時間	主な学習活動	学習形態	(観点) 評価規準【方法】
課題の設定	8	○全校ガイダンス ・単元のねらいと学習の進め方について知る。 ○個人仮テーマの検討 ・イメージマップづくりで、視点を広げる。 ○個人仮テーマの検討会、テーマ決定 ・教師との話し合いにより、テーマを検討して決定し、グループをつくる。 グループ学習テーマ 介護の心構えや仕方について調べ、介護体験を行い、介護を行うには何が大切かを考えよう	全校 学級 学級	(態度) 意欲的に取り組もうとしている。 【学習記録ノート】 (課題) 自分の興味・関心を基に視点を広げようとしている。 【学習記録ノート】 (課題) 自分の興味・関心に基づいたテーマを明確に文章で表現している。 【学習記録ノート】
情報の収集・分析	13	○情報の収集。第1回1日調査体験の計画作成。 ○調査体験直前指導 ・(全体指導) 注意事項を聞く。 ・(グループ指導) 調査体験内容を確認する。 ○第1回1日調査体験 (ねらい) 介護についての様々な情報を得る ・○○病院での調査研究活動を行う。	グループ 全体 グループ グループ	(問題) 課題を解決するため、調査・研究などの探究活動を積極的に行っている。 【観察・学習記録ノート】 ・病院に、事前に目的・活動内容・時間についての連絡をとらせる。 (問題・態度) 課題解決に向け積極的に調査体験に取り組んでいる。 【観察・学習記録ノート】
まとめ・表現	4	○まとめる ○ポートフォリオ検討会の準備 ・4月からの学習を振り返る。 ・検討会の発表原稿を作成する。 ○ポートフォリオ検討会 ・今までの活動内容や、自分の意見を教師と1対1で検討することにより、これからの活動の見直しをもつ。	個人 個人 個人	(学び) 調べたことを分かりやすく効果的にまとめている。 【体験活動報告書】 (学び) 資料や報告書などを分かりやすくまとめている。 【ポートフォリオ】 (学び) ポートフォリオを用いて、工夫して発表している。 【ポートフォリオ】
振り返り	1	○計画の修正、見直し ・ポートフォリオ検討会での教師のアドバイスを基に計画の見直しや修正(テーマ等)を行う。 ・調査研究の結果を受け、介護体験を行う必要性を認識する。	個人	(態度) 今までの取組を振り返り、テーマ等を見直しや修正をしようとしている。 【観察・学習記録ノート】
情報の収集・分析	13	○情報の収集。第2回1日調査体験の計画作成 ○調査体験直前指導(第1回調査体験と同様) ○第2回1日調査体験 (ねらい) 介護には何が大切かを考える。 ・特別養護老人ホーム「○○苑」での介護体験活動を行う。	グループ グループ	(問題) 課題を解決するため、調査・研究などの探究活動を積極的に行っている。 【観察・学習記録ノート】 (問題・態度) 課題解決に向け積極的に調査体験に取り組もうとしている。 【観察・学習記録ノート】
まとめ・表現	22	○まとめる ○レポート作成 ・4月からの学習内容や意見をまとめ、分野ごとのレポート綴りを作成する。 ○分野別発表の計画、資料作成、発表準備 ・発表方法(模造紙・PC・OHC等)を決め、発表時のグループでの役割を決め、発表原稿や資料の作成を行う。 ○代表による全校発表会 ・分野の代表として、体育館で全校生徒に向けて発表する。 ○相互評価 ・互いによい点を評価カードに記入し、発表者に伝える。	個人 グループ グループ グループ 個人 個人	(学び) 調べたことを分かりやすく効果的にまとめている。 【体験活動報告書】 (学び) 体験活動で収集した情報を整理したり、分析している。 【観察・学習記録ノート】 (学び) 調べたことを分かりやすく効果的にまとめている。 【レポート用紙】 (学び) 分かりやすい発表資料となるよう工夫している。 【発表資料】 (学び) レポートを用いて、工夫して発表している。 【発表資料】 (学び) 1年間取り組んだ内容を分かりやすく発表している。 【観察・学習記録ノート】 (態度) 他者のよい点を見付け、伝えるようとしている。 【相互評価カード】
振り返り	1	○振り返り ・1年間の取組を通して、自己の生き方につながられたか、実践しようとしているか評価する。	個人	(生き方) 学んだことを自己の生活の中で実践しようとしている。 【学習記録ノート】 ・コメントを書き添える。

5 本時の学習指導 (34～39/62時間) 6時間

(1) 目標

- ・事前に作成した調査体験計画書に沿って、事故のないよう計画を実施する。(学び方・考え方)
- ・課題を解決するために、介護体験を行う。(問題解決の能力)
- ・介護を行うには何が大切かを知る。(生き方を考える力)

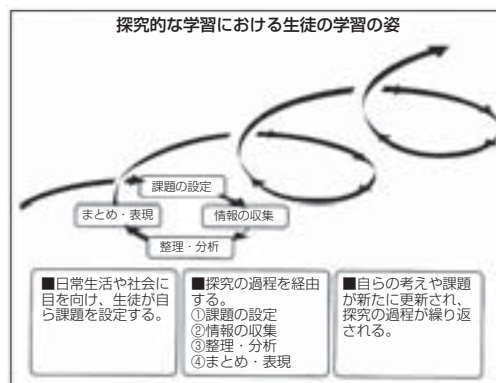
(2) 展開

学習過程	時間	学習活動・内容	◎指導上の留意点、☆評価規準
課題の確認	1時間	<p>○本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○○苑で情報収集や介護体験を行い、介護には何が大切かを考えよう。</p> </div> <p>○本時の注意事項を再確認する。                      ・行き帰りの交通安全                      ・礼儀やマナー                      ・メモの重要性                      ・感謝の気持ち</p> <p>○自転車で「○○苑」へ移動する。</p> <p>○苑長さんへの挨拶をする。</p>	<p>◎本時の目的を確認させる。</p> <p>◎前日の調査体験直前指導の内容を再確認させる。                      ◎学校の代表者として活動をするという自覚をもたせ、責任ある行動を取らせる。                      ◎困ったことが起こった時は、自分で判断するのではなく、○○苑の職員に必ず相談させる。                      ◎ヘルメットの着用を確認し、自転車の安全指導を徹底させる。                      ◎事前に用意させておいた挨拶文を班長に読ませる。</p>
情報の収集	2時間	<p>○苑長さんからの話を聞く。                      ・施設の説明                      ・お年寄りの気持ち、接し方</p> <p>○職員より介護についての心構えや本で行う介護体験の内容を聞く。                      『心構え』                      ・思いやりをもって臨んでも、言葉や態度に表れなければ、相手に通じない。                      ・「ダメ」「汚い」という自尊心を傷つける言葉は使わない。                      ・急がせない。                      ・スキンシップも必要である。</p> <p>『本日の介護体験の内容』                      ・食事の手伝い                      ・話し相手                      ・歩くときや車いすの介助                      ・部屋の掃除</p> <p>○介護を行っている職員の行動を観察し、気付いた点や大切なことをノートにまとめる。                      ○介護について不明な点を聞く。</p>	<p>☆苑長さんの話を学習記録ノートにまとめている。                      ☆介護についての心構えを、学習記録ノートにまとめている。</p> <p>◎「心構え」と「本日の介護体験の内容」という二つの視点で話を聞くとともに、それらを具体的な場面に当てはめて、考えさせる。</p> <p>☆職員の行動から心構えを推測し、介護の内容と関連付けながら学習記録ノートにまとめている。</p>
昼食			
介護体験	2.5時間	<p>○病院での調査体験をもとにして、二人一組になり、職員の指導のもと介護体験を行う。                      ・食事の手伝いをする。                      ・話し相手をする。                      ・歩くときや車いすの介助をする。                      ・部屋の掃除をする。</p> <p>○苑長さんと職員より指導講評を受ける。</p> <p>○苑長さんや職員へのお礼の挨拶をする。                      ○自転車で学校へ移動する。</p>	<p>◎病院で得た知識を実践させる。                      ◎一人が介護体験を行い、他方はその介護体験を観察させ、気付いた点を伝えさせる。                      ☆具体的な介護内容や、気付いた点を学習記録ノートに記録している。</p> <p>◎感謝の気持ちを込めて伝えさせる。                      ◎ヘルメットの着用の徹底と、自転車の安全指導を徹底させる。</p>
課題の整理	0.5時間	<p>○介護を行うには何が大切かをまとめる。                      (ア) 気持ち①「喜んでもらいたい」という気持ち                      ②「お手伝いをする」という気持ち                      ③信頼関係を築くこと                      (イ) 手 法①急がせない                      ②目線の高さを同じにする                      ③聞き取りやすい話し方をする</p> <p>○お礼の手紙を書く。                      ○教師の話聞く。</p>	<p>◎活動教室で帰校の報告を行う。                      ☆学習記録ノートに、体験活動を基に介護を行う上で大切なことをまとめている。</p>
本時のまとめ			

## 5 総合的な学習の時間における探究の過程

探究的な学習とは、「物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みのこと」であり、探究的な学習とするためには、次のような学習過程が重要となる。

- ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



### (1) 探究の過程における指導事項

- ① 課題の設定—体験活動における学習対象とのかかわり方や出会わせ方などを工夫する。

課題を設定する場面では、日常生活や社会に存在する事象に直接触れる体験活動が重要であり、そのことが、その後の探究活動の原動力となる。総合的な学習の時間にあっては、生徒が自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。そのためには、教師が次のような意図的な働きかけをすることが重要である。

ア 体験活動においても、学習対象とのかかわり方や出会わせ方など工夫する。

・事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせたりする。

イ 生徒の日常生活とは異なる視点で対象をとらえるような働きかけをする。

・体験活動において、現実の状況と理想の姿との対比などから問題を見出させ、課題意識を高めさせる。

- ② 情報の収集—探究活動において生徒が自覚的に情報を収集する学習活動\*1が展開されるように心がける。

生徒が自覚的に情報を収集する場面において、次のようなことに配慮し、各教科で身に付けた知識や技能を発揮することで、より多くの情報、より確かな情報を収集させることができる。

ア 収集する情報は多様であり、学習活動によって変わるということ

イ 課題解決のための情報収集を自覚的に行うこと\*2

ウ 収集した情報がその後の探究活動を深める役割を果たせるよう、適切な方法で蓄積すること

\*1情報の種類と学習活動の例 ・数値化した情報…実測値 ・言語化した情報…インタビュー ・感覚的な情報…自らの体験

\*2自覚的に行う情報収集…目的を明確にして調査したり、インタビューしたりするような活動など

(参考) 無自覚的に行う情報収集…体験活動に没頭したり、体験活動を繰り返したりしている時など

- ③ 整理・分析—生徒が情報を活用した活発な思考をする学習活動を位置付ける。

生徒が情報を活用した活発な思考の場面に適切に位置付けることが重要である。その際、教科での学習成果を生かしながら、収集された情報の種類や量を把握させること及び情報の整理や分析の方法を決定させることが大切である。

(参考) 情報を活用した思考場面…②の学習活動によって収集した情報を、種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化して因果関係を導き出したり、多面的・多角的な視点で分析したりすること

- ・数値化された情報の分析の例…コンピュータソフトを活用してグラフ化（折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラムなど）したり、標本調査の考え方を利用して母集団の傾向を探ったりすること
- ・言語化された情報の分析の例…カードにして整理する方法、出来事を時間軸で並べる方法、調査した結果をマップなどの空間軸に整理する方法など、複数の整理された情報を関連付けること

- ④ まとめ・表現—生徒の学習が質的に高まり、表面的ではない深まりのある探究活動の実現につなげる。

③の後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行うことで、それぞれの生徒の既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながり、一人一人の生徒の考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる。このことが学習として質的に高まっていくことであり、表面的ではない深まりのある探究活動を実現することにつながる。そのために、次のことに配慮したい。

ア 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすること

イ まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながるということ

ウ 伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、伝えるべき内容を十分に蓄積しておくこと

各教科で獲得した表現方法を積極的に活用し、それらを組み合わせたりしていく総合表現なども考えられる。ここでの学習活動は、それ自体が②③④の学習活動を同時に行っていると考えられる場合もある。

こうした学習活動をスパイラルに繰り返していくことが探究的な学習を実現することにつながる。

### (2) 指導上の配慮事項

各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うことが重要である。

その場合、教師が次のように対応することが考えられる。

- ・生徒だけでは理解できない知識や法則が学習活動に不可欠だと考えられる。→資料を提示したり説明したりする。
- ・生徒が課題への取組方を考えつかない。→過去に取り組んだ事例を示したり、より達成しやすい小さな課題に分けて示したりする。
- ・課題や学習の場の設定、学習活動の目的をしっかりとたせること、学習の状況についての価値付けや方向付け、探究活動が一段落したときなど→新たな方向性の提示や次の課題の設定する。



## 6 「総合的な学習の時間」における言語活動の充実

### (1) 「内容の取扱いについての配慮事項」と言語活動

総合的な学習の時間において、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。具体的には、次のようなことが考えられる。

ア 言語により分析する。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。そのためには、分析について具体的なイメージをもつことが必要となる。

＜集めた情報を多面的・多角的に分析する場合の例＞

- ・共通点と相違点に分けて分類する
- ・時間軸に沿って並べる
- ・原因と結果に分ける
- ・変化や結果を予測する
- ・現実社会の事象に当てはめる

イ 言語によりまとめたり表現したりする。

分析したことを論理的な文章やレポートに書き表したり、スピーチや説明をしたりすることなどが考えられる。文章やレポートにまとめることは、それまでの学習活動を振り返り、体験したことや収集した情報と既有的知識とを関連させ、自分の考えとして整理することにつながる。

ウ 学習成果を共有する。

イの報告の場として、学級全体で参加者全員の前で行うプレゼンテーションや目の前の相手に個別に行うポスターセッションなど、多様な形式を目的に応じて設定することが考えられる。そこでは、発表の工夫をさせると同時に、聞いている生徒にも主体的にかかわらせるために討論を取り入れるなどの工夫をすることが重要である。

エ 発表後の活動を大切にす。

発表後の時間を十分確保して交流したり、助言し合ったり、それぞれに自己評価したりして、新たな追究に向かうなどが考えられる。また、最終的に卒業論文としてまとめ上げたり、総合表現として演じたりするなど考えられる。このようにして、言語活動を利用した協同的な学習によって、グループによって異なる学習内容を共有したり、相互に関係付けたりすることが実現する。

### (2) 「探究の過程」と言語活動

(1)を踏まえ、総合的な学習の時間における言語活動を、「探究の過程」に沿って「言語活動」を例示する。

ア 課題の設定及び情報の収集における言語活動

インタビューや体験活動で得た情報を言語化し、後に活用できるデータとして蓄積する。

(ア) 目的を明確にして調査したりインタビューしたりするような活動により、言語化した情報を得る。

例 町に住む人にインタビューしたり、質問紙で調査したりして実態調査をする。

関係機関等の担当者に、説明を聞き、情報を収集する。

(イ) 体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりする。

例 体験活動を行ったときの感覚、そのときの思いなどを作文などで言語化する。

イ 言語化された情報を活用した整理・分析

収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理や分析を行う。このことこそ、情報を活用した活発な思考の場面であり、こうした学習活動を適切に位置付ける。

- ・集めた情報をカードにして整理する方法
  - ・出来事を時間軸で並べる方法
  - ・調査した結果をマップなどの空間軸に整理する方法
- 複数の整理された情報を関連付ける。

例 インタビューの結果を分類し、統計的手法で分析する。実地調査の結果を地図上に示し空間軸で整理する。

↓

調査の目的に対して、異なる立場を想定して自分の考えをまとめ、論理的に話し合っていく。

ウ 言語活動を伴うまとめ・表現

イの後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする。目的を明確にして伝えたいことを論理的に表現する。これらの言語活動を利用した協同的な学習によって、異なる学習内容を共有したり、相互に関係付けたりすることができる。そして、発表や討論を通して、学び方やものの考え方を身に付けさせることが重要である。

(ア) まとめ方の例 ・レポート ・新聞 ・ポスター ・論文 ・プレゼンテーションソフト

(イ) 表現方法の例 ・スピーチ ・説明 (レポートや論文、ポスター、プレゼンテーションソフトなどを用いる)

(ウ) 発表方法の例 ・専門家などに分かりやすく伝える活動 ・討論 ・話し合い ・意見交換 ・論文

発表時における指導上の留意点

- ・聞いている生徒には発表内容を深め、問題点に気付かせる「よい質問」をする。
- ・発表者の学習成果を自分の考えと比較し、生かそうとしたりすることを目標とさせる。
- ・発表後の時間を十分確保して交流したり、助言し合ったり、それぞれに自己評価したりして、新たな追究に向かわせる。
- ・最終的に卒業論文としてまとめ上げさせたり、総合表現として演じさせたりする。

## 7 職場体験活動を行う際の留意事項

### (1) 総合的な学習の時間における位置付けと職場体験活動の意義

学習指導要領第4章総合的な学習の時間において、学習活動の例示として職業や自己の将来に関する学習活動が加えられた。職場体験学習の意義については、学習指導要領解説特別活動編第3節学校行事（5）勤労生産・奉仕的行事の項に、人間としての生き方についての自覚を深め、将来の社会人として自立していくための態度や能力を育てるものとしてその大切さが述べられているが、中学校学習指導要領総則第3の5を踏まえ、適切に取り扱わなければならない。

### (2) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

#### ア 育てようとする資質や能力及び態度の具体的視点について

職場体験活動において育てようとする資質や能力及び態度についての具体的な視点は、例示の「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」を踏まえると次の表のように考えられる。

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
①身の回りにはどのような職業があり、どのような特徴があるかを調査する。 ②職場体験での経験や感じたことを相手に一目で分かるように伝える。	①自分の将来の職業を考え、そのために必要なことに取り組もうとする。	①自分の将来を考えるために、調査結果や友達の意見を参考にしようとする。 ②自己の将来の目標に向けて、行動したり地域の活動に参加したりする。

#### イ 探究活動の過程への位置付けについて

総合的な学習の時間の学習活動を探究的に行うためには、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の過程に沿って学習活動を具体的に設定することが大切である。職場体験活動を探究活動の過程に位置付ける場合においては、事前に様々な職業などについて調べ、そこから生徒が課題を見付け、職場体験に臨むことが考えられる。さらに、職場での体験活動においても、そこで働く人と直接かかわったり、目的と照らし合わせて考えたりすることなども大切になる。また、職場体験を終えた後も、単に感想を発表するだけでなく、課題や目的に照らして何を考えたのか、さらにどのような課題が生まれてきたのかなどについて、レポートにまとめたり発表したりして、さらに問題の解決や探究活動が連続することが重要である。

#### ウ 職場体験の期間について

県教育委員会では、キャリア教育推進上、また「埼玉の子ども70万人体験活動」においても、職場体験など勤労観・職業観を養う体験活動を5日に拡充していくことを目指している。5日間の職場体験では、「緊張する」→「仕事を覚える」→「仕事に慣れる」→「工夫する、考える」→「感動する、感謝する」といった心の変容がみられ、仕事の楽しさ、苦労なども実感でき、人間としての成長が期待できると考えられる。（中学校キャリア教育体験学習プログラム、県小・中学校キャリア教育実践事例集参照）

#### エ 職場体験の実施時期について

基本的には時間割を踏まえることになるが、実施時期や学習活動に応じて柔軟に対応することも大切である。職場体験は、一定の期間に集中して実施することで学習の効果が上がることなどを考慮し、夏季等の休業中に設定することも考えられる。（夏季等の休業中に実施する場合は、公立小中学校管理規則に基づき市町村教育委員会の承認が必要である。）

#### オ 特別活動の代替について

総合的な学習の時間に行われる職場体験活動により、特別活動の勤労生産・奉仕的行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間とは別に、特別活動として改めてこれらの体験活動を行わないこともできる。

### (3) 実施上の配慮事項

#### ア 実施期間中の指導体制について

職場体験活動を充実させるためには、活動内容はもちろんのこと安全上、また次年度に向けての継続的な実施や地域の協力に応えるという観点からも、体験先との連携を深めていかななくてはならない。そのためにも職場体験実施期間中における学校側の指導体制は、いろいろな場面を想定して確実に対応できるものとすることが重要である。（文部科学省 中学校職場体験ガイド参照）

#### イ 健康管理や安全確保上の配慮について

職場体験は、学校を離れて行う学習活動であるため生徒一人一人の健康管理に十分配慮することが必要である。また、受け入れた企業、事業所等の職員等の安全確保に十分配慮することが求められる。職場体験の活動内容等を踏まえつつ、必要に応じ実地調査による事前の検討・点検、活動の際の指導者の立会い等が大切である。